

## 現代日本人の価値意識に関する研究

橋口 英俊\*・三角 同\*・保延 成子\*

福田 啓子\*・鈴木 征男\*\*

(昭和55年9月30日受理)

### A Study of Modern Japanese Values

Hidetoshi HASHIGUCHI, Hitoshi MISUMI, Shigeko HONOME,

Keiko FUKUDA and Yukio SUZUKI

(Received September 30, 1980)

#### はじめに

人が何に価値をおくかということは、ある意味において、その人の生き方や行動を決定的に支配する。また、そうした価値観は、究極においてその時代、社会、文化をも左右する。つまり、価値の問題は、およそ人間や社会の関与するすべてに通じる根元的な問題といえよう。

見田<sup>1)</sup>は、従来の価値についての考えを老大な文献研究にもとづいて整理し、価値と価値意識(あるいは価値観)を区別して次のように述べている。「価値とは主体の欲求を満たす客体の性能であり、それに対応する主体の側の要因が価値意識(価値観)である」。これは、価値を広義での主体の欲求との関連でとらえようとしたもので、現在における価値についての有力な見解の1つとなっている。これに対して山下<sup>2)</sup>は、さらに一歩進めて、価値の本質はむしろ人間を含めた全存在者の間にある秩序に根差したものであると主張する。つまり、欲求を満たす客体の性能というよりは、人間の欲求こそが、価値に向かって方向づけられるべきであり、そこに注目しなければ、人間存在を根底において支えている人間の尊厳とか生命の畏敬などを端的に価値とみなすことができなくなるというわけである。いいかえれば、自己という存在を支えるにたるそうした根底的な価値を見出していくことこそ人間形成に不可欠な課題であり、今日、価値観の教育がいわれるゆえんでもある<sup>3)</sup>。

すなわち、すべての人間がそれぞれの価値観のもとによりよく生きるためには、それらが究極において人間尊重や生命尊重、世界平和や人類の幸福という根底的価値

とつねに調和するものでなければならない。それは人類に課せられた第一義的な命題であり、けっしてほっておいて出てくるものではない。そのことは人類の歴史、世界の歴史が、過去も現在も殺しあい、憎しみあう、ある意味では戦争の歴史、つまり非人間尊重の歴史であったことから明らかであろう。教育は本来それに歯止めをかけ、人間尊重、世界平和をすべての人類の公理として、この世に生をうけた瞬間からその精神を血肉化できるようにすることであろう。すなわちその価値実現を未来永劫のものにするところにその使命がある。本研究は、このような問題意識にたつて、教育基本法でいう「個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成」はいかにあるべきかをできるだけ実証的に明らかにし、具体的な提言を行なうことを究極の目標としてはじめられたものである。

その一環として、われわれはここ数年来学校教育の中核をなす教科書が、それを実際に学んだ人々の人格形成にいかなる影響を及ぼすかを明らかにする目的で、明治以降の小学校教科書を主として人間尊重という観点から内容分析してきた<sup>4)5)6)7)8)9)10)11)</sup>。今回はそれにひき続くものとして、これまで分析した国定教科書(明治37年の国定I期以降の国語、修身、音楽、理科)や戦後の学習指導要領の内包する価値観をある程度反映するような質問調査表を作成し、20代から50代にかけてのわが国の成人男女に実施する機会を得たので、その概要ならびに結果の一部について報告する。

#### 方 法

##### 1 価値観質問調査表の作成

上述のような趣旨にもとづき、当初57項目からなる質

\* 児童学科 \*\* 三菱総合研究所

問調査表を作成したが、本調査ではそのうち40項目を選び、次の方向から問うように構成した。

1) あなたが生きていく上で特に重要だと思う項目はどれか(10項目選択させる)。

2) 自分の受けた教育の中ではどの程度重視されていたと思うか(“非常に重視されていた”“かなり重視されていた”“どちらともいえない”“あまり重視されていなかった”“まったく重視されていなかった”の5段階に“わからない”を加える)。

3) 今の子どもの教育の中ではどの程度重視されていると思うか(“重視されている”“どちらともいえない”“重視されていない”の3段階に“わからない”を加える)。

使用した40項目は以下の通りである。

1. 勉強に励むこと 2. 仕事に励むこと 3. 個性を発揮すること 4. ものを大切にすること 5. むだ使いをしないこと 6. 体を鍛えること 7. 自信をもって行動すること 8. 忍耐強く物事を行なうこと 9. 謙虚であること 10. 規律正しいこと 11. 正直であること 12. 自分自身を大切にすること 13. 誠実であること 14. 教養が豊かであること 15. スポーツを愛好すること 16. 芸術を愛すること 17. ひろく人や生きものを愛すること 18. 思いやりがあること 19. 責任感が強いこと 20. 義理人情にあついこと 21. 礼儀正しいこと 22. 社会のためにつくすこと 23. 協調性があること 24. 正義感が強いこと 25. 約束を守ること 26. 他人に対して寛容であること 27. 友人を大切にすること 28. お年寄を大切にすること 29. 親に孝行す

ること 30. 目上の人を大切にすること 31. 祖先を敬うこと 32. 国を愛すること 33. 近所づきあいを大切にすること 34. 権利を主張すること 35. 義務を果たすこと 36. 恩に報いること 37. 出世すること 38. 指導力があること 39. 天皇を敬うこと 40. 国際的視野をもつこと

## 2. 調査方法

調査対象：20歳から59歳の成人男女で、宮城、千葉、東京、大阪、岡山、福岡を82地点に分け、住民基本台帳より、無作為二段抽出法により標本抽出する。

調査方法：訪問留置、訪問回収法による。

調査期間：昭和54年9月

調査地域、設定標本数および回収率は表1の通りである。

## 結果および考察

### 1. 全体的特徴

調査表は、先に述べたように 1) 現在自分が生きていく上で重要だと思う価値観 2) 過去に自分が受けた教育で重視されていたと思う価値観 3) 現在の子どもの教育で重視されていると思う価値観の3方向から問うように構成されている。まず全体の応答状況からそれぞれの特徴をみてみよう。

#### 1) 現在の価値観

表2は、現代社会を構成している成人男女が、生きていく上で何を重要だと思っているかを示したものである。選択率の高いものから10位まであげると

1位：体を鍛えること (53.5%)

2位：責任感が強いこと (49.7%)

表 1

調査地域	設 定		回 収 率	
	標本数(人)	地点数	有効回収数(人)	回収率(%)
1 宮城県仙台市	250	10	185	74.0
2 宮城県黒川郡大和町	150	6	108	72.0
3 千葉県野田市	150	6	121	80.7
4 東京都23区	400	16	300	75.0
5 大阪府大阪市	300	12	220	73.3
6 大阪府池田市	150	6	102	68.0
7 岡山県岡山市	250	10	184	73.6
8 岡山県赤磐郡瀬戸町	150	6	112	74.7
9 福岡県福岡市	250	10	180	72.0
計	2,050	82	1,512	73.8

表2 生きる上で特に重要だと思うもの（10項目選択）

	N	%
1 勉強に励むこと	319	21.1
2 仕事に励むこと	698	46.2
3 個性を発揮すること	367	24.3
4 ものを大切にすること	690	45.6
5 むだ使いをしないこと	315	20.8
6 体を鍛えること	809	53.5
7 自信をもって行動すること	403	26.7
8 忍耐強く物事を行うこと	561	37.1
9 謙虚であること	260	17.2
10 規律正しいこと	271	17.9
11 正直であること	696	46.0
12 自分自身を大切にすること	508	33.6
13 誠実であること	534	35.3
14 教養が豊かであること	339	22.4
15 スポーツを愛好すること	189	12.5
16 芸術を愛すること	89	5.9
17 ひろく人や生きものを愛すること	392	25.9
18 思いやりがあること	718	47.5
19 責任感が強いこと	752	49.7
20 義理人情にあついこと	214	14.2
21 礼儀正しいこと	433	28.6
22 社会のためにつくすこと	209	13.8
23 協調性があること	316	20.9
24 正義感が強いこと	183	12.1
25 約束を守ること	620	41.0
26 他人に対して寛容であること	196	13.0
27 友人を大切にすること	455	30.1
28 お年寄を大切にすること	346	22.9
29 親に孝行すること	485	32.1
30 目上の人を大切にすること	213	14.1
31 祖先を敬うこと	201	13.3
32 国を愛すること	136	9.0
33 近所づきあいを大切にすること	307	20.3
34 権利を主張すること	82	5.4
35 義務を果すこと	443	29.3
36 恩に報いること	145	9.6
37 出世すること	36	2.4
38 指導力があること	113	7.5
39 天皇を敬うこと	35	2.3
40 国際的視野をもつこと	326	21.6
不 明	3	0.2
合 計	1,512	100.0

表3 自分の受けた教育ではどの程度重視されていたと思うか

	非常に重視		かなり重視		どちらとも いえない		あまり重視され ていなかった		まったく重視され ていなかった		わからない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1 勉強に励むこと	198	13.1	600	39.7	307	20.3	365	24.1	19	1.3	23	1.5
2 仕事に励むこと	339	22.4	716	47.4	288	19.1	92	6.1	16	1.1	61	4.0
3 個性を発揮すること	118	7.8	327	21.6	545	36.0	359	23.7	87	5.8	76	5.0
4 ものを大切にすること	627	41.5	655	43.3	145	9.6	55	3.6	9	0.6	21	1.4
5 むだ使いをしないこと	568	37.6	648	42.9	204	13.5	59	3.9	7	0.5	26	1.7
6 体を鍛えること	376	24.9	607	40.2	354	23.4	134	8.9	13	0.9	28	1.9
7 自信をもって行動すること	223	14.8	500	33.1	558	36.9	144	9.5	18	1.2	69	4.6
8 忍耐強く物事を行うこと	420	27.8	654	43.3	309	20.4	75	5.0	7	0.5	47	3.1
9 謙虚であること	275	18.2	563	37.2	469	31.0	108	7.1	11	0.7	86	5.7
10 規律正しいこと	506	33.5	724	47.9	199	13.2	47	3.1	9	0.6	27	1.8
11 正直であること	596	39.4	663	43.9	189	12.5	34	2.3	3	0.2	27	1.8
12 自分自身を大切にすること	211	14.0	401	26.5	546	36.1	248	16.4	49	3.2	57	3.8
13 誠実であること	394	26.1	669	44.3	330	21.8	58	3.8	7	0.5	54	3.6
14 教養が豊かであること	134	8.9	398	26.3	577	38.2	282	18.7	54	3.6	67	4.4
15 スポーツを愛好すること	129	8.5	374	24.7	587	38.8	313	20.7	59	3.9	50	3.3
16 芸術を愛すること	64	4.2	199	13.2	622	41.1	403	26.7	124	8.2	100	6.6
17 ひろく人や生きものを愛すること	177	11.7	482	31.9	551	36.4	190	12.6	37	2.5	75	5.0
18 思いやりがあること	319	21.1	668	44.2	383	25.3	86	5.7	14	0.9	42	2.8
19 責任感が強いこと	497	32.9	701	46.4	244	16.1	32	2.1	9	0.6	29	1.9
20 義理人情にあついこと	368	24.3	568	37.6	398	26.3	99	6.6	21	1.4	58	3.8
21 礼儀正しいこと	599	39.6	678	44.8	171	11.3	36	2.4	7	0.5	21	1.4
22 社会のためにつくすこと	335	22.2	495	32.7	474	31.4	133	8.8	18	1.2	57	3.8
23 協調性があること	213	14.1	590	39.0	510	33.7	106	7.0	12	0.8	81	5.4
24 正義感が強いこと	371	24.5	593	39.2	407	26.9	79	5.2	7	0.5	55	3.6
25 約束を守ること	529	35.0	704	46.6	209	13.8	33	2.2	8	0.5	29	1.9
26 他人に対して寛容であること	175	11.6	470	31.1	622	41.1	126	8.3	17	1.1	102	6.8
27 友人を大切にすること	364	24.1	685	45.3	349	23.1	62	4.1	12	0.8	40	2.7
28 お年寄を大切にすること	462	30.6	640	42.3	284	18.8	75	5.0	11	0.7	40	2.7
29 親に孝行すること	619	40.9	566	37.4	234	15.5	51	3.4	12	0.8	30	2.0
30 目上の人を大切にすること	531	35.1	646	42.7	245	16.2	52	3.4	9	0.6	29	1.9
31 祖先を敬うこと	441	29.2	480	31.8	347	23.0	141	9.3	41	2.7	62	4.1
32 国を愛すること	460	30.4	307	20.3	410	27.1	186	12.3	57	3.8	57	3.8
33 近所づきあいを大切にすること	236	15.6	538	35.6	461	30.5	151	10.0	43	2.8	83	5.5
34 権利を主張すること	100	6.6	244	16.1	644	42.6	331	21.9	101	6.7	92	6.1
35 義務を果すこと	414	27.4	662	43.8	305	20.2	57	3.8	14	0.9	60	4.0
36 恩に報いること	349	23.1	577	38.2	382	25.3	102	6.8	22	1.5	80	5.3
37 出世すること	130	8.6	388	25.7	548	36.4	253	16.7	72	4.8	121	8.0
38 指導力があること	147	9.7	349	23.1	679	44.9	178	11.8	44	2.9	115	7.6
39 天皇を敬うこと	474	31.4	232	15.3	352	23.3	213	14.1	126	7.6	115	7.6
40 国際的視野をもつこと	89	5.9	258	17.1	583	38.6	310	20.5	134	8.9	138	9.1

3位：思いやりがあること	(47.5%)
4位：仕事に励むこと	(46.2%)
5位：正直であること	(46.0%)
6位：ものを大切にすること	(45.2%)
7位：約束を守ること	(41.0%)
8位：忍耐強く物事を行なうこと	(37.1%)
9位：誠実であること	(35.3%)
10位：自分自身を大切にすること	(33.6%)

同様に低いものから10位まであげると

1位：天皇を敬うこと	(2.3%)
2位：出世すること	(2.4%)
3位：権利を主張すること	(5.4%)
4位：芸術を愛すること	(5.9%)
5位：指導力があること	(7.5%)
6位：国を愛すること	(9.0%)
7位：恩に報いること	(9.6%)
8位：正義感が強いこと	(12.1%)
9位：スポーツを愛好すること	(12.5%)
10位：他人に対して寛容であること	(13.5%)

まず選択率の高い方に注目すると、現代人に最も関心があるのは「体を鍛える」ことであり、また「責任感が強く」「思いやりがあり」「正直で」「仕事にも励む」などいわゆる平均的日本人の姿がほうふつとしてくる。

次に低い方をみると、トップが「天皇を敬うこと」でこれは6位の「国を愛すること」とともに戦後日本を端的に象徴しているように思われる。また「出世すること」が2位でわずかに2.4%というのも今日の価値観を代表するものであろうし、高い方で出てきた真面目で仕事一途の日本人の背後に「芸術を愛し」たり「スポーツを愛好すること」の苦手なもう1人の日本人像を垣間みる思いがする。また低い方の3位に、「権利を主張すること」があげられ、同じく「正義感が強いこと」が8位に、「他人に対して寛容であること」が10位にあげられていることは、同時に正しいことに毅然とした態度のとれない日本人、思いやりがあるようできて偏狭で誤解されやすい、あるいは不信の念を抱かれやすい日本人のジレンマをそこによみとることができる。

## 2) 過去の教育観

表3は、現代の成人が、自分の受けた教育をどのようにみているかを内省にもとづき5段階に評定した結果を示す。

このうち、「非常に重視」に「かなり重視」を加えて

選択率の高いものから10位まであげると

1位：ものを大切にすること	(84.8%)
2位：礼儀正しいこと	(84.5%)
3位：正直であること	(83.3%)
4位：約束を守ること	(81.5%)
5位：規律正しいこと	(81.3%)
6位：むだ使いをしないこと	(80.5%)
7位：責任感が強いこと	(80.4%)
8位：親に孝行すること	(79.4%)
9位：目上の人を大切にすること	(77.8%)
10位：お年寄を大切にすること	(72.9%)

同様に低いものから10位まであげると

1位：芸術を愛すること	(17.4%)
2位：権利を主張すること	(22.8%)
3位：国際的視野をもつこと	(22.9%)
4位：個性を発揮すること	(29.4%)
5位：指導力があること	(32.8%)
6位：スポーツを愛好すること	(33.8%)
7位：出世すること	(34.3%)
8位：教養が豊かであること	(35.2%)
9位：自分自身を大切にすること	(40.5%)
10位：他人に対して寛容であること	(42.7%)

まず選択率の高い方からみると、ここに登場するのはほとんど社会人としてのエチケットに関連した項目である。このうち1位の「ものを大切にすること」、3位の「正直であること」、4位の「約束を守ること」、7位の「責任感が強いこと」は先に述べた現在重要だと思っている価値観の10位までと重複している。また現在の価値観で断然トップであった「体を鍛えること」はここでは17位で、3位の「思いやりのあること」はここでは16位に終わっている。現在の価値観で10位までに登場しなかった「親に孝行すること」「目上の人を大切にすること」「お年寄を大切にすること」がここでは8、9、10位を占めていることとあわせ興味深いものがある。

次に選択率の低い方をみると、上とは対照的により個人的色彩の濃い項目がほとんどである。このうち1位の「芸術を愛すること」、2位の「権利を主張すること」、5位の「指導力があること」、6位の「スポーツを愛好すること」、7位の「出世すること」、10位の「他人に対して寛容であること」の6項目が、現在重視している価値観で低かった項目(10位まで)と重複している。なお現在の価値観で最も低かった「天皇を敬うこと」はここでは

表4 現在の子どもの教育ではどの程度重視されていると思うか

	重視されている		どちらとも いえない		重視されて いない		わからない	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1 勉強に励むこと	1154	76.3	249	16.5	43	2.8	66	4.4
2 仕事に励むこと	350	23.2	511	33.8	462	30.6	189	12.5
3 個性を発揮すること	578	38.2	426	28.2	371	24.5	137	9.1
4 ものを大切にすること	321	21.2	291	19.3	833	55.1	67	4.4
5 むだ使いをしないこと	255	16.9	376	24.9	794	52.5	87	5.8
6 体を鍛えること	605	40.0	475	31.4	373	24.7	59	3.9
7 自信をもって行動すること	393	26.0	600	39.7	348	23.0	171	11.3
8 忍耐強く物事を行うこと	283	18.7	433	28.6	651	43.1	145	9.6
9 謙虚であること	141	9.3	447	29.6	693	45.8	231	15.3
10 規律正しいこと	389	25.7	513	33.9	484	32.0	126	8.3
11 正直であること	566	37.4	535	35.4	292	19.3	119	7.9
12 自分自身を大切にすること	651	43.1	473	31.3	233	15.4	155	10.3
13 誠実であること	409	27.1	625	41.3	305	20.2	173	11.4
14 教養が豊かであること	707	46.8	495	32.7	160	10.6	150	9.9
15 スポーツを愛好すること	705	46.6	537	35.5	166	11.0	104	6.9
16 芸術を愛すること	293	19.4	703	46.5	273	18.1	243	16.1
17 ひろく人や生きものを愛すること	330	21.8	584	38.6	412	27.3	186	12.3
18 思いやりがあること	349	23.1	576	38.1	472	31.2	115	7.6
19 責任感が強いこと	419	27.7	570	37.7	406	26.9	117	7.7
20 義理人情にあついこと	130	8.6	480	31.8	705	46.6	197	13.0
21 礼儀正しいこと	413	27.3	525	34.7	471	31.2	103	6.8
22 社会のためにつくすこと	191	12.6	604	40.0	527	34.9	190	12.6
23 協調性があること	365	24.1	626	41.4	331	21.9	190	12.6
24 正義感が強いこと	226	15.0	669	44.3	425	28.1	192	12.7
25 約束を守ること	517	34.2	580	38.4	295	19.5	120	7.9
26 他人に対して寛容であること	169	11.2	671	44.4	430	28.4	242	16.0
27 友人を大切にすること	526	34.8	604	40.0	246	16.3	136	9.0
28 お年寄を大切にすること	350	23.2	558	36.9	462	30.6	142	9.4
29 親に孝行すること	251	16.6	597	39.5	518	34.3	146	9.7
30 目上の人を大切にすること	201	13.3	538	35.6	615	40.7	158	10.5
31 祖先を敬うこと	144	9.5	399	26.4	743	49.1	226	15.0
32 国を愛すること	106	7.0	396	26.2	754	49.9	256	16.7
33 近所づきあいを大切にすること	153	10.1	530	35.1	598	39.6	231	15.3
34 権利を主張すること	697	46.1	462	30.6	165	10.9	188	12.4
35 義務を果たすこと	356	23.5	602	39.8	384	25.4	170	11.2
36 恩に報いること	147	9.7	543	35.9	589	39.0	233	15.4
37 出世すること	617	40.8	479	31.7	203	13.4	213	14.1
38 指導力があること	361	23.9	649	42.9	246	16.3	256	16.9
39 天皇を敬うこと	50	3.3	314	20.8	820	54.2	328	21.7
40 国際的視野をもつこと	577	38.2	480	31.8	202	13.4	253	16.7

下から12位（上から29位）になっている。もちろんこれらは被検者の年齢によっても大いに異なる。そのへんの問題については別途考察する予定でいるが、いずれにせよ、現代の成人が自分の受けた教育をどのように位置づけ、それらが現在の価値観とどうつながっているかを考える上で参考になる結果といえよう。

### 3) 現在の教育観

表4は、現在の子どもの教育の中でこれらの価値観がどの程度重視されていると思うかを問うた結果である。

このうち“重視されていると思う”上位10項目をあげると

1位：勉強に励むこと	(76.3%)
2位：教養が豊かであること	(46.8%)
3位：スポーツを愛好すること	(46.6%)
4位：権利を主張すること	(46.1%)
5位：自分自身を大切にすること	(43.1%)
6位：出世すること	(40.8%)
7位：体を鍛えること	(40.0%)
8位：個性を発揮すること	(38.2%)
9位：国際的視野をもつこと	(38.2%)
10位：正直であること	(37.4%)

同様に“重視されていないと思う”上位10項目をあげると

1位：ものを大切にすること	(55.1%)
2位：天皇を敬うこと	(54.2%)
3位：むだ使いをしないこと	(52.6%)
4位：国を愛すること	(49.9%)
5位：祖先を敬うこと	(49.1%)
6位：義理人情にあついこと	(46.6%)
7位：謙虚であること	(45.8%)
8位：忍耐強く物事を行なうこと	(43.1%)
9位：目上の人を大切にすること	(40.7%)
10位：近所づきあいを大切にすること	(39.6%)

まず“重視されていると思う”項目で目だつのは「勉強に励むこと」で、2位以下を断然引き離している。また、ここに登場するのはほとんど個人の領域に属する項目であり、先に述べた自分が過去に受けた教育の場合とは好対照をなしている。つまり、過去の教育で重視されなかったと評価された上位10項目のうちの7項目がここに含まれている。すなわち2位の「教養が豊か」、3位の「スポーツを愛好」、4位の「権利を主張」、5位の「自分自身を大切に」、6位の「出世する」、8位の「個性を発揮」

同じく8位の「国際的視野をもつこと」の各項目である。ちなみに過去の教育で重視度が高かった項目は10位の「正直であること」（過去の教育では3位）1項目のみである。また、現在自分が重要だと思う価値観との関係でみると、その高い方の上位10項目とは7位の「体を鍛えること」と10位の「正直であること」の2項目が、低い方の10項目とは3位の「スポーツを愛好すること」と4位の「権利を主張すること」、6位の「出世すること」の3項目が重複している。

次に、現在の子どもの教育で重視されていないと思う価値観では、最も高かったのが「ものを大切にすること」で、これは過去の教育で最も重視されていた項目である。現在重要だと思う価値観でも6位にあげられている。3位の「むだ使いをしないこと」（過去の教育では6位の重複項目）とともに現在と過去の教育でズレの大きい項目ということができよう。また、「天皇を敬うこと」「国を愛すること」がそれに次いで高いが、これは現在の価値観とも共通しており、後述するように戦前と戦後の教育の中で最も大きな変化を示した項目である。その他過去の教育で高く、現在の子どもの教育で重視されていないと評価された項目として8位の「忍耐強く物事を行なうこと」、9位の「目上の人を大切にすること」があげられる。特に前者は、現在の価値観として重視されている項目でもあり、よく大人たちが「今の子どもには根性がない」などという理由もこのへんにありそうである。また、重視度が高いとされた項目が、全体として自我志向性の強い項目であるのに対し、ここに登場するのは他者志向性の強い項目であることも大きな特徴である。すなわち、上述の項目以外でも「祖先を敬う」「義理人情にあつい」「謙虚である」「近所づきあいを大切にすること」などいずれも他者との関係における価値項目である。いいかえれば、成人の目からみると、現在の子どもの教育は、自分たちが子ども時分に受けた教育とは恰度逆の面が強調され、旧来のタテ関係を中心とする他者志向的価値観教育はほとんど影をひそめ、いい意味でも悪い意味でも自我を中心とした個人主義的色彩の濃厚な価値観教育であるということのようである。過去の教育で重視され、現在の自分の価値観とも一致し、かつ現在の子どもの教育でも重視されているとしてあげられた項目は「正直であること」ただ1項目である。その順位がそれぞれ3位、5位、10位であることとあわせ興味深いものがある。

表5 現代人の価値観（年齢別・性別・上位選択項目）

表中くは同順位を示す

順位	20歳～24歳（203人）		25歳～29歳（200人）		30歳～34歳（239人）		35歳～39歳（207人）		40歳～44歳（204人）	
		%		%		%		%		%
1	思いやりがある	50.3	思いやりがある	49.5	思いやりがある	54.8	体を鍛える	58.0	体を鍛える	58.3
2	体を鍛える	45.8	体を鍛える	49.0	体を鍛える	54.0	責任感が強い	52.7	責任感が強い	56.4
3	正直である	42.9	責任感が強い	48.0	責任感が強い	49.8	ものを大切にす	49.8	仕事に励む	53.4
4	責任感が強い	42.4	正直である	46.0	ものを大切にす	47.7	思いやりがある	48.8	ものを大切にす	50.5
5	約束を守る	40.9	仕事に励む	43.0	約束を守る	43.5	仕事に励む	46.4	思いやりがある	48.0
6	友人を大切にす	40.9	ものを大切にす	42.0	正直である	43.1	正直である	46.4	正直である	47.6
7	個性を発揮する	38.4	約束を守る	41.0	仕事に励む	42.7	約束を守る	43.0	約束を守る	38.7
8	自信をもって行動する	37.4	誠実である	39.0	忍耐強く物事を行う	42.7	忍耐強く物事を行う	41.1	忍耐強く物事を行う	37.3
9	仕事に励む	36.5	親に孝行する	36.5	親に孝行する	39.8	自分自身を大切にす	36.2	誠実である	35.8
10	義務を果たす	34.5	友人を大切にす	36.0	誠実である	36.8	誠実である	35.8	自分自身を大切にす	34.8

順位	45歳～49歳（186人）		50歳～54歳（135人）		55歳～59歳（138人）		男性全体（752人）		女性全体（760人）	
		%		%		%		%		%
1	仕事に励む	55.4	体を鍛える	57.0	正直である	55.1	体を鍛える	55.1	思いやりがある	55.3
2	責任感が強い	54.3	ものを大切にす	51.1	体を鍛える	52.9	責任感が強い	54.3	体を鍛える	52.0
3	体を鍛える	53.8	責任感が強い	48.2	ものを大切にす	50.0	仕事に励む	48.7	ものを大切にす	49.9
4	ものを大切にす	46.2	仕事に励む	45.9	仕事に励む	47.8	正直である	43.9	正直である	48.2
5	正直である	46.2	正直である	43.7	責任感が強い	44.2	ものを大切にす	41.4	責任感が強い	45.3
6	思いやりがある	45.7	約束を守る	39.3	思いやりがある	37.7	約束を守る	40.2	仕事に励む	43.7
7	約束を守る	42.5	思いやりがある	37.0	約束を守る	37.0	思いやりがある	39.6	約束を守る	41.8
8	忍耐強く物事を行う	39.8	忍耐強く物事を行う	34.8	自分自身を大切にす	32.6	忍耐強く物事を行う	38.2	自分自身を大切にす	37.5
9	誠実である	37.1	むだ使いをしない	31.9	誠実である	32.6	誠実である	33.8	誠実である	36.8
10	親に孝行する	31.7	自分自身を大切にす	31.1	忍耐強く物事を行う	31.2	義務を果たす	32.5	親に孝行する	36.7



表6 現代人の価値観（年齢別・性別・下位選択項目）

表中くは同順位を示す

順位	20歳～24歳（203人）		25歳～29歳（200人）		30歳～34歳（239人）		35歳～39歳（207人）		40歳～44歳（204人）	
		%		%		%		%		%
1	天皇を敬う	0.5	天皇を敬う	1.0	天皇を敬う	0.8	天皇を敬う	1.5	出世する	1.5
2	出世する	3.0	出世をする	2.0	出世する	3.4	出世する	1.9	天皇を敬う	2.5
3	恩に報いる	3.0	祖先を敬う	6.0	権利を主張する	3.8	権利を主張する	4.4	芸術を愛する	3.9
4	国を愛する	4.4	権利を主張する	7.0	国を愛する	5.9	芸術を愛する	4.8	権利を主張する	5.4
5	祖先を敬う	4.9	国を愛する	7.0	指導力がある	6.3	指導力がある	7.3	指導力がある	5.9
6	近所づきあいを大切にする	6.9	指導力がある	8.0	芸術を愛する	7.1	恩に報いる	8.2	恩に報いる	9.8
7	権利を主張する	9.9	芸術を愛する	8.0	恩に報いる	9.6	国を愛する	8.2	国を愛する	10.3
8	指導力がある	10.8	恩に報いる	9.0	正義感が強い	9.6	祖先を敬う	9.7	スポーツを愛好する	11.3
9	社会のためにつくす	10.8	目上の人を大切にする	9.5	祖先を敬う	11.7	正義感が強い	12.1	他人に対して寛容である	11.8
10	芸術を愛する	10.8	義理人情にあつい	9.5	義理人情にあつい	11.7	義理人情にあつい	12.1	規律正しい	11.8

順位	45歳～49歳（186人）		50歳～54歳（135人）		55歳～59歳（138人）		男性全体（752人）		女性全体（760人）	
		%		%		%		%		%
1	出世する	2.2	出世する	2.2	出世する	2.9	出世する	2.1	天皇を敬う	2.0
2	天皇を敬う	2.7	芸術を愛する	2.2	スポーツを愛好する	3.6	天皇を敬う	2.7	出世する	2.6
3	権利を主張する	3.2	権利を主張する	4.4	芸術を愛する	4.4	権利を主張する	5.1	指導力がある	3.4
4	芸術を愛する	3.8	天皇を敬う	5.9	指導力がある	4.4	芸術を愛する	6.1	芸術を愛する	5.7
5	スポーツを愛好する	6.5	指導力がある	5.9	権利を主張する	5.1	恩に報いる	9.8	権利を主張する	5.8
6	国を愛する	8.1	他人に対して寛容である	6.7	天皇を敬う	6.5	祖先を敬う	10.4	国を愛する	7.4
7	指導力がある	10.2	スポーツを愛好する	8.2	正義感が強い	8.7	国を愛する	10.6	正義感が強い	8.3
8	正義感が強い	11.3	協調性がある	12.6	個性を発揮する	11.6	指導力がある	11.6	スポーツを愛好する	8.6
9	目上の人を大切にする	12.4	正義感が強い	13.3	他人に対して寛容である	12.3	目上の人を大切にする	12.5	恩に報いる	9.3
10	他人に対して寛容である	12.4	恩に報いる	13.3	恩に報いる	13.8	他人に対して寛容である	12.8	他人に対して寛容である	13.2

いずれにせよ、現代社会の担い手である成人の目からみた過去の教育、現在の教育、現在自分が生きる上で重要だと思う価値のあいだにかくも大きな断層があるということは、発達や教育、その他、時代、社会、文化などを考える上で重要な示唆を含んでいるように思われる。

## 2. 年齢と価値観

表5は、現代人が生きる上で重要だと思う価値観を5歳さざみで選択率の高いものから10位まで示したものである。同様に表6は、選択率の低いものから10位までを示したものである。また図1、図2、図3はその1部を図示したものである。

年齢別に選択率の高い方からみていくと、まず20歳から34歳まで1位であった「思いやり」は、30～34歳をピークに漸減し、代って「体を鍛える」が1位となり40～44歳まで続く。そして「思いやり」はのちの59歳まで漸次後退していくのが大きな特徴となっている。その際特に顕著なのが「仕事に励むこと」で、20～24歳では9位(36.6%)であったのが、25歳を過ぎるとを40%を越え、45～49歳では一躍トップになる。またこの世代で2位の「責任感の強いこと」は35歳以後急激に増し、40～44歳、45～49歳ではそれぞれ56.4%、54.3%の高選択率になり、代ってそれまで上昇を続けていた「体を鍛える」が唯一の3位に転落する。最近、昭和1ケタ時代に誕生した世代がストレス世代といわれ、相対的に死亡率の高いことなどが話題になっているが、まさにその世代に該当するのがこのへんの年齢であり、生活意識や価値観の上からもその特異性を示しているように思われる。

50～54歳になると、また「体を鍛える」がトップになり、次に「ものを大切にすること」がはじめて50%を越えて登場する。また、55～59歳になると、これまでそれほど高くなかった「正直であること」が55.1%という高選択率でトップになり、以下「体を鍛える」「ものを大切にすること」と続く。それに対し、40代まで急上昇していた「仕事に励む」は、50歳を過ぎると急に落ち、以後平行線を辿っている。

その他目だつ項目をあげると、「個性を発揮する」「広く人や生き物を愛する」では、ともに20～24歳で最も高く、前者は徐々に速度をゆるめながら40～44歳まで下がり、50代になると激減するのが特徴的である。また後者は、30～34歳で急に下り、以後漸次減少していく。

「自分自身を大切にすること」は、30代で最も高く、昭和1ケタの40代後半で急に下るのが特徴的である。こ

れは、先に述べた若い世代で最も高い「思いやりがあること」と比較的類似した曲線を描いているが、前者の急下降点が45～49歳であるのに対し、後者では次の50～54歳であるところに若干の差異がみられる。つまり、40代後半の世代が、自分自身を大切にすることよりも他人に対する思いやりのほうがはるかに高いのに対し、50代に入ると両者がぐっと接近してくる。いいかえれば、40代後半世代が、自分を犠牲にしても他人のためにつくすという方向での価値がその前後の世代に比べ相対的に高いということであり、前述のひたすら仕事に励み、真面目で責任感が強いということとあわせ考えると、ストレス世代といわれる理由も自ずと明らかであろう。

なお、上にあげた4項目つまり「個性を発揮する」「広く人や生き物を愛する」「自分自身を大切にすること」「思いやりがある」はともに人間尊重に関係した価値項目である。すなわち、ここでいう人間尊重とは、「人間の尊厳という信念にもとづいて自他の人格・生命をともに尊重する」ということをさし、先の項目でいえばそのいずれをもみたすことが人間尊重の精神にあることになる。自と他のいずれが尊重されているかを含めて上述の結果をみると世代ごとに微妙な差があり興味深いものがある。おおまかにいえば、若い世代ほど「個性を発揮すること」と「自分自身を大切にすること」がともに高く、また「思いやり」もそれに大きく加わっているのに対し、年を経るにしたがって徐々に没个性的な方向での自分自身を大切にすることへと変化し、それにともない「思いやり」も漸減していく。ただし、ここでも45～49歳は他とやや趣きを異にし、自分自身を大切にしない形での逆に「個性発揮」の方向を示唆している。ユニークな世代というべきだろう。

次に、選択率の低い方に目を転じると、ここでも年齢による差は明白である。

まず、全体で最も選択率の低かった「天皇を敬うこと」は、40歳あたりから徐々に上り、20～24歳では、わずかに0.5%であったのが、50～54歳、55～59歳ではそれぞれ5.9%、6.5%となり、5位、6位となっている。また「国を愛すること」も20～24歳では、4.4%で4位であったのが、35～39歳では8.2%で6位となり、50～54歳では18.5%の高選択率になっている。ただし、49歳以下では、35歳までが8～10%台で、また55～59歳が15.2%であることとあわせ、50歳というのがこのへんでの大きな境目になっている印象を受ける。

現代日本人の価値意識に関する研究

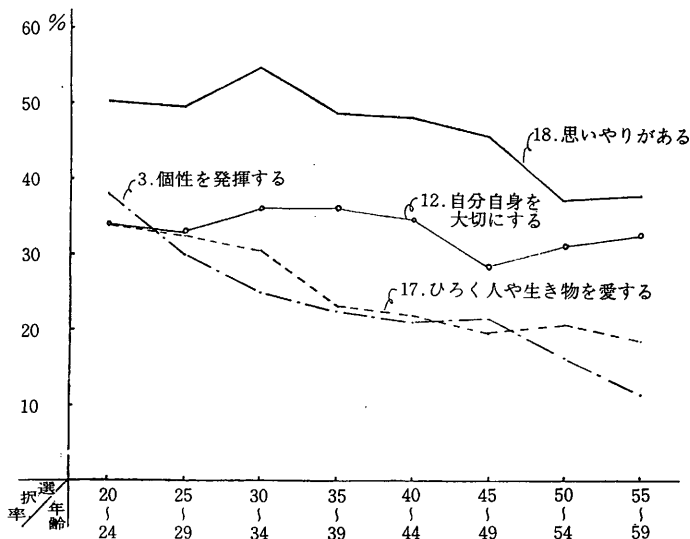


図 1

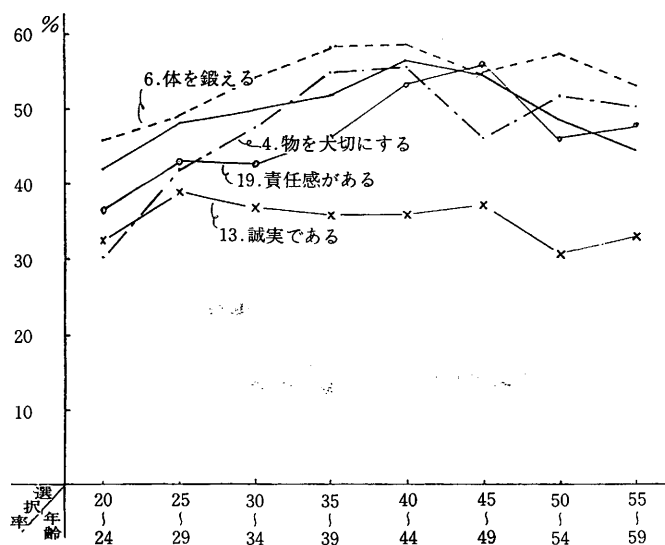


図 2

また、高い方では「体を鍛えること」に対する関心があれほど強かったにもかかわらず、40歳あたりから「スポーツを愛好すること」が顕著に減少し、同様に「芸術を愛すること」も年齢とともに下降していくことがわかる。「権利を主張すること」は30~34歳まで激減し、以後は横ばい状態となっている。いかにいえば、低い方で特に目だつ「天皇を敬う」「国を愛する」などのいわゆる忠君愛国的項目も、「スポーツを愛好し」「芸術を愛し」また「権利を主張する」といった、より個人的レベル

での価値項目も、ともに年齢差がきわめて大きく、前者では、年齢が高くなるにつれ増加し、とりわけ50歳を迎えるあたりで激増すること、また後者ではそれと対照的に年齢とともに減少するというものであり、その差を生み出す背景を考える時実に興味深いものがある。1つには当然発達、つまり、より生物学的な意味での年齢からくる問題もあろう。しかし、もちろん項目にもよろうが、もっと大きいのは社会的文化的要因のほうではなからうか。このへんの問題については別途考察する予定でいるが、

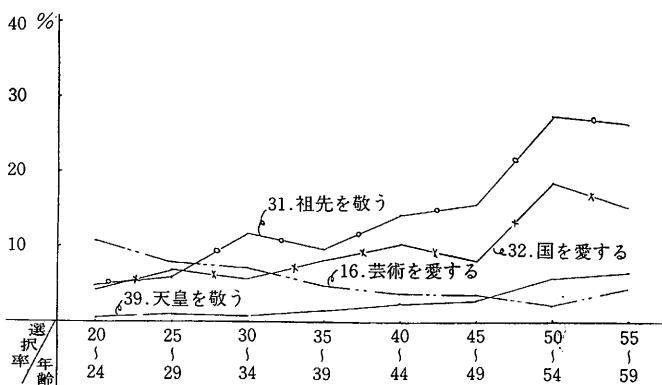


図 3

冒頭に記した小学校国定教科書との関係でいえば、本調査対象者は、国定Ⅲ期（大正7年～昭和7年）以降、つまり大正デモクラシー期からあとの世代ということになる。

すなわち、55～59歳はほぼ国定Ⅲ期に小学校時代を送っており、50～54歳は、国定Ⅳ期（昭和8～15年）のいわゆるファシズム強化時代が小学生期ということになる。次の45～49歳は国定Ⅳ期からⅤ期（昭和16～20年）に移行する時期であるがよりⅤ期に近いと考えてよい。国定Ⅴ期はいうまでもなく太平洋戦争突入期にあたる。40～44歳はこのⅤ期と戦後のⅥ期（昭和21～26年）にかかる世代である。また次の35～39歳は、ほぼ国定期が小学生時代で、30～34歳から以後はいわゆる戦後の検定教科書期に相当する。戦後の検定教科書は、ほぼ昭和24年にはじまり、33年と43年の学習指導要領の改訂にともない大幅に書き換えられることになる。つまり30～34歳は検定Ⅰ期、25～29歳は検定Ⅱ期、20～24歳はⅡ期からⅢ期Ⅰ期にかけて小学生時代を過したことになる。

これまで述べてきたことから明らかなように、同じ時代社会を構成し、その有力な担い手である者同士が、実に多様な価値意識のもとに生活しており、またかくも年齢による差異が大きいということはある意味で驚くべきことである。その要因の1つとして、多感な幼少年期や青年期がいかなる社会的文化的背景をもった時期であったかということを考えることはきわめて重要なように思う。ところで上述の教科書がその中でどのような位置にあり、彼らの価値観形成にどのような役割を演じていたかを知ることは興味あるところであるが、そのへんの問題については今後の大きな課題として他日を期したい。

なお、本稿では、自分の受けた過去の教育観や現代の子どもに対する教育観についての年齢差の問題、その他

性差の問題などについては触れることができなかったが、いずれ稿をあらためてまとめる予定である。

本研究における調査は、財団法人生命保険文化センターと株式会社三菱総合研究所の共同プロジェクト「高齢化社会への対応」の環境として実施されたものである<sup>12)</sup>。また、本研究の費用の一部は昭和年度東京家政大学特別研究費による。付記して深く謝意を表する。

## 文 献

- 1) 見田宗介：「価値意識の理論」弘文堂、東京（1966）
- 2) 山下栄一：「価値観の形成」（依田新ほか編、青年の性格形成、金子書房、東京、1973）
- 3) 橋口英俊：「価値観」（依田新監修、新教育心理学事典、金子書房、東京、p. 104—105、1977）
- 4) 橋口英俊、三角同、鮎川成子、今井啓子、浦部陽子：「教科書と人格形成に関する基礎的研究（Ⅰ）」その1～その4、第19回日本教育心理学会総会発表論文集、p. 485—495（1977）
- 5) 橋口英俊、三角同、鮎川成子、今井啓子、浦部陽子：「近代教科書の内容分析—生命尊重と達成動機を中心に（Ⅰ）その1 国語について」東京家政大学研究紀要18（1）、p. 59—68（1978）
- 6) 橋口英俊、三角同、鮎川成子、今井啓子、大滝ミドリ：「教科書と人格形成に関する基礎的研究（Ⅱ）」その1～その4、第20回日本教育心理学会総会発表論文集、p. 352—359（1978）
- 7) 橋口英俊、三角同、鮎川成子、今井啓子：「近代教科書の内容分析—生命尊重と達成動機を中心に（Ⅱ）その2 修身について」東京家政大学研究紀要19

- (1), p. 31—40. (1979)
- 8) 三角同, 橋口英俊, 鮎川成子, 今井啓子: 「修身教科書にあらわれた理想的日本人像」東京家政大学研究紀要 19 (1), p. 51—60 (1979)
- 9) 今井啓子, 橋口英俊, 三角同, 鮎川成子: 「近代教科書の内容分析—生命尊重と達成動機を中心に(Ⅲ)その3理科について」東京家政大学研究紀要19 (1) p. 42—50 (1979)
- 10) 今井啓子, 橋口英俊, 三角同, 鮎川成子: 「教科書と人格形成に関する基礎的研究(Ⅲ) 戦後理科の学習指導要領の内容分析—生命尊重を中心に」第21回日本教育心理学会総会発表論文集, p. 564—565 (1979)
- 11) 保延成子, 橋口英俊, 三角同, 福田啓子: 「近代教科書の内容分析—生命尊重と達成動機を中心に(Ⅳ) その4音楽について」準備中
- 12) 財団法人生命保険文化センター・株式会社三菱総合研究所: 「高齢化社会への対応」(1980)
-